

-
-
-

ヨーロッパで人気のスポーツ

■イギリス

労働者、サッカー
中流以上、ラグビー、クリケット、次いでテニス

■フランス

労働者、サッカー
中流以上、ラグビー
その他、自転車、次いでモータースポーツ

■イタリア

1位サッカー、他モータースポーツ、自転車、バレーボール

■ドイツ

1位サッカー、他モータースポーツ、ハンドボール、バスケット、アイスホッケー

■スペイン

1位サッカー、2位モータースポーツ、他自転車、テニス、バスケット



- ・
- ・
- ・

ヨーロッパの団体競技

ヨーロッパで最も人気のあるスポーツはサッカー(アソシエーション・フットボール)。欧州のクラブチームは世界でも実力、経済力ともにトップレベルであり、UEFAチャンピオンズリーグ(ヨーロッパ・クラブ大陸選手権)は最も権威あるサッカーの大会の一つとされる。

ヨーロッパのナショナルチームはUEFA欧州選手権に出場し、FIFAワールドカップでは南米の国々に並んで常に上位に食い込んでいる。

特に人気があり成功を収めているサッカーリーグは
スペインのリーガ・エスパニョーラ、
イングランドのプレミアリーグ、
イタリアのセリエA、
フランスのリーグ・アン、
ドイツのブンデスリーガ。



- ・
- ・
- ・

ヨーロッパの団体競技

サッカーに加え、いくつかの地域では他の団体競技に人気が集まっている。

アイスホッケー: フィンランドで特に人気のあるスポーツである。スウェーデン、チェコ、ラトヴィア、ベラルーシ、スロヴァキア、カザフスタン、ロシアではサッカーに次いでポピュラーで、オーストリア、デンマーク、ドイツ、スロヴェニア、スイスでも非常に人気がある。

バスケットボール: ヨーロッパで広く行われている競技で、特に地中海の国々と東欧でメジャーなスポーツ。

バスケットボールの伝統がある国は旧ユーゴスラヴィア諸国（特にセルビア、スロヴェニア、クロアチア）、リトアニア、ロシア、ギリシア、スペインで、フランス、イスラエル、トルコがこれらに続く。

バレーボール: 地中海諸国と東欧で盛んなスポーツで。

ハンドボール: ドイツ、スペイン、ノルウェー、デンマーク、スウェーデンなどで人気がある。

ラグビー(ラグビーユニオン): イングランド、スコットランド、ウェールズ、アイルランド、南フランス、北イタリアで盛ん。

この6カ国代表による対抗戦シックス・ネイションズが毎年開かれている。ラグビーリーグはイギリスとフランスの一部で親しまれている。

クリケット: イギリス南東部に起源を持つ競技で、イングランドとウェールズ、オランダの一部で一般的。

フィールドホッケー: いくつかのヨーロッパ諸国で人気である。



ヨーロッパの個人競技

陸上競技、水上競技(ウォータースポーツ)の最も権威ある大会の多くはヨーロッパで開催される。いくつかのメジャーなゴルフトーナメントもヨーロッパで行われており、ライダーカップではヨーロッパ代表チームとアメリカ代表チームが対戦する。自転車競技はベルギー、フランス、ドイツ、イタリア、ルクセンブルク、オランダ、スペイン、スイスなど多くの国で一般的なスポーツであり、三大ツール(イタリアのジロ・デ・イタリア、フランスのツール・ド・フランス、スペインのブエルタ・ア・エスパーニャ)をはじめとするロードレースの大会はテレビなどを通じて毎年多くの人々が観戦する。

テニスもほぼ欧州全土で人気のあるスポーツで、4つのグランドスラムのうち2つがフランス(全仏オープン)とイギリス(ウィンブルドン)で行われる。

寒冷な気候の国ではウィンタースポーツが重要である。北欧やアルプスの国々では様々な種類のスキーやスノーボード競技に人気が集まっている。これらの国々は冬季オリンピックのメダル上位常連国である。

いくつかの国ではその国固有の競技が盛んなところもある。アイルランドのゲーリック・ゲームズ、スペインの闘牛などが例としてあげられる。



-
-
-

ヨーロッパの個人競技

モータースポーツはヨーロッパ各国で行われている。フォーミュラ1は創成期からヨーロッパのドライバーやチームが上位を占めており、多くのグランプリが欧州で開催される。モーターサイクル・スピードウェイはポーランド、スカンディナヴィア、チェコ、イギリスで盛んである。



-
-
-

イギリスのスポーツ

イギリス発祥のスポーツ

競馬、ゴルフ、アーチェリー、射撃、サッカー、陸上競技、水泳、ラグビー、ヨット、テニス、自転車、ボクシング、ホッケー、バトミントン、卓球、クリケット、スカッシュなど。

これらのスポーツの多くは、突然発明されたというよりは、産業化の始まる以前から各地にあった素朴な身体運動文化が、近代社会を生きる人々によって、余暇を楽しみ充実させる方法としてルールや競技方法、スタイルなどが整えられていった。



-
-
-

イギリスのスポーツ

19世紀になり中産階級が勢力をのびしてくると、上流子弟の全寮制の私立中等学校であるパブリックスクールや大学という教育機関が確立され、そこでの活動を通して新しいスポーツの形成に影響を与えるようになった。

ラグビーは、イギリスのパブリックスクールの一つであるラグビー校で生まれたものである。



- ・
- ・
- ・

ドイツのスポーツ

イギリスが近代スポーツの母国とするならば、ドイツは近代体育の母国とみることができる。

世界ではじめて体育という教科を考え、学校の授業に導入したのはドイツ。

ドイツがスポーツ大国となった現状には旧西ドイツ政府が行った「第2の道」と「ゴールデンプラン」が大きな役割を果たしたといえる。「第2の道」は1960年から行われた旧西ドイツのスポーツ政策で、第1の道がエリート選手育成の施策であるのに対し、第2の道は一般の国民を対象としたスポーツ奨励策のことである。



- ・
- ・
- ・

ドイツのスポーツ

イギリスが近代スポーツの母国とするならば、ドイツは近代体育の母国とみることができる。

世界ではじめて体育という教科を考え、学校の授業に導入したのはドイツ。

ドイツがスポーツ大国となった現状には旧西ドイツ政府が行った「第2の道」と「ゴールデンプラン」が大きな役割を果たしたといえる。「第2の道」は1960年から行われた旧西ドイツのスポーツ政策で、第1の道がエリート選手育成の施策であるのに対し、第2の道は一般の国民を対象としたスポーツ奨励策のことである。



- ・
- ・
- ・

ドイツのスポーツ

ドイツでは、日本のようにほとんどの学校に運動場があるということではなく、ドイツの体育の授業は、隣接あるいは近郊の各種公共スポーツ施設まで出向いて行う。

例えば、「走る」授業は400メートルトラックへ、「水泳」授業は温水プールへ行き、最適な環境で行われるのが一般的である。このような状況だからこそドイツはゴールデンプランを実行する必要があった。

そして、ドイツではすでに総合スポーツクラブが十分に発達していた(クラブの税的優遇、設立条件の緩和)からこそ、公共スポーツ施設(学校のスポーツ施設も常に一般開放され、公共スポーツ施設と呼ぶことができる)を整備する必要があった。



-
-
-

フランスのスポーツ

一般的にフランス人はスポーツをすることをあまり好まない。

『読む辞典、フランス』によると

「フランスではスポーツをやる人は非常に少ない。学校でも体育の授業がないのは普通。

フランス人は体を動かすことがあまり好きでない。スポーツは、自分でやるものではなく、休日にテレビで見るものだと思得ているフシがある。」



-
-
-

フランスのスポーツ

1970年代半ばに行われたアンケートでは、人口約5250万人のうち、スポーツ人口は約500万人で、10人に1人の割合。

しかもその半分以上が18歳未満。

成人でスポーツに親しんでいるものは20人に1人。

そして、1500万人を越えるフランス人はスポーツと名のつくものにはいっさい手を出したことがないという。



-
-
-

フランスのスポーツ

フランス人があまりスポーツをしないという理由：
中世の民衆たちは長時間労働に明け暮れ、日曜にも仕事をすることが多かったので、スポーツをする暇がなかったことが考えられる。

また大学の学生たちも知力のみを重視し、肉体を軽視するフランスの学校教育の伝統にしばりつけられ、休み時間の散歩以外には、体を動かすことはほとんどなかった。
そのため、学校教育での体育教育はあまり行われていなかった。



-
-
-

フランスのスポーツ

フランス人があまりスポーツをしないという理由：
中世の民衆たちは長時間労働に明け暮れ、日曜にも仕事をすることが多かったので、スポーツをする暇がなかったことが考えられる。

また大学の学生たちも知力のみを重視し、肉体を軽視するフランスの学校教育の伝統にしばりつけられ、休み時間の散歩以外には、体を動かすことはほとんどなかった。

そのため、学校教育での体育教育はあまり行われていなかった。



ヨーロッパのサッカー

欧州の主要サッカークラブの収入と増加率

(単位:百万ユーロ)

クラブ名	2002 ~2003年	2010 ~2011年	増加倍率
マンチェスターユナイテッド	251	367	1.46
ユベントス	239	154	0.64
ACミラン	200	235	1.18
レアルマドリード	192	480	2.50
バイエルンミュンヘン	163	321	1.97
インテル	163	211	1.29
リバプール	150	203	1.35

クラブ名	2002 ~2003年	2010 ~2011年	増加倍率
アーセナル	149	251	1.68
チェルシー	134	250	1.87
ローマ	132	143	1.08
バルセロナ	124	451	3.64
シャルケ	118	202	1.71
リヨン	84	133	1.58
マンチェスターシティ	70	170	2.43



ヨーロッパサッカー大会

-	協会創立年	プロリーグ戦	カップ戦
		チーム数	
スペイン	1913年	リーガ・エスパニョーラ 20チーム	国王杯
イングランド	1863年	プレミアシップ 20チーム	FA杯
イタリア	1889年	セリエA 18チーム	コパ・イタリア
ドイツ	1900年	ブンデスリーガ 18チーム	ドイツ・カップ
日本	1921年	Jリーグ 20チーム	天皇杯



- ・
- ・
- ・

ヨーロッパのサッカー

Jリーグとヨーロッパリーグの違い

日本のJリーグは、ヨーロッパのサッカーリーグを参考(特にドイツと言われている)に作られたので、組織運営などに大きな違いはない。

根本的に違うのは開催時期。ヨーロッパリーグの多くが、秋に開幕し、春に終わる。日本はその逆。

したがって、Jリーグでは「2008年シーズン」という表現をするが、ヨーロッパでは「2008-2009シーズン」という表現になる(アメリカも同じ)。

また、現在のヨーロッパサッカーは、言ってみればハリウッドの映画のような華やかさがあり、世界中から熱い視線が集まるステージ。つまり、大きなビジネスになっている。特に、各国の王者が集まるチャンピオンズリーグは、ワールドカップをも凌ぐ人気。

日本人しか注目しないJリーグとは、そこが根本的に違う。

お金と歴史があるから、もちろん人材的にも、超一流の選手が自然と集まってくる。日本で指揮を取ったこともあるベンゲル監督も、途中で契約を打ち切ってまでイングランドへ移籍した。



-
-
-

ヨーロッパのサッカー

Jリーグとヨーロッパリーグの違い

日本の子供：学校でサッカーを学ぶ。

ヨーロッパの子供：クラブでサッカーを学ぶ。

日本サッカーの優れている点

スタジアムの安全性：フーリガンがない。暴力行為がない。

選手にせよリーグにせよ、フェアでクリーンなイメージがある：今のところ、八百長事件も起きていない。イタリアなどは、過去に何度か八百長スキャンダルが起きているし、リーグ自体にマフィアの影響があるとも言われている。



イギリスのサッカー

プレミアリーグ20チーム

Manchester United	Chelsea	Manchester City	Arsenal
Tottenham Hotspur	Liverpool	Everton	Fulham
Aston Villa	Sunderland	West Bromwich Albion	Newcastle United
Stoke City	West Ham United	Southampton	Wigan Athletic
Reading	Qweens Park Rangers	Norwich City	Swansea City



イギリスのサッカー

イングランド・プレミアリーグ(Barclays PREMIER-SHIPが正式名称)
バドワイザー FAカップ(国内カップ戦) キャピタルワン・カップ(国内リーグカップ)

1部リーグ・・・20チームで構成

2部リーグ・・・フットボールリーグ・チャンピオンシップ :24チーム、

3部リーグ・・・フットボールリーグ1:24チーム、

4部リーグ・・・フットボールリーグ2:24チーム、

5部リーグ・・・カンファレンス・ナショナル:24チーム

・・・この下にも何層かのリーグがある

試合の翌日の新聞には、プレミアシップからカンファレンス以下までほぼ全ての試合の結果と詳細が掲載される。



-
-
-

イギリスのサッカー

プレミアリーグとフットボールリーグ・チャンピオンシップの入れ替え方式

まずプレミアリーグ下位3チームが自動降格。

そしてフットボールリーグ・チャンピオンシップの上位2チームが自動昇格、さらに3位から6位のチームがプレーオフを行い1チームが昇格。

キックオフ時間は土曜日の15:00が原則だが、日曜日の午後や月曜日の夜、平日の夜にも開催される。



-
-
-

マンチェスターユナイテッドの戦略

サポーターは世界に6億5900万人(そのうち1億800万人が中国人)。

その価値は1740億円。

世界でもっとも資産価値の高いスポーツクラブ」として紹介された。

営業収入はプレミアリーグ最高の420億円(2010-2011)、

8月にはニューヨーク証券取引所で株式を上場。



-
-
-

マンチェスターユナイテッドの戦略

持ち株会社で事業は多角化されている

入場料収入やテレビ放映権などの収入に加えて、マンUのビジネスは多角化されていて、たくさんの収益柱がある。

サッカーを軸にそのブランド力を利用して幅広い事業を展開する形。

ちなみに、マンチェスター・ユナイテッドというのは持ち株会社の形になっていて、フットボールクラブとしてのマンチェスター・ユナイテッドはその子会社のひとつという位置づけ。

子会社には他にMUファイナンスという金融会社や放送局のMUTVなど様々な業種のものがある。

具体的にどんなサービスを展開しているのか、

例をみると、MUファイナンスでマンUクレジットカードを作ってポイントが貯まると、そのポイント還元としてマンUトップチームの練習に招待する。練習を監督のすぐ横で見れたり、練習後には選手たちとクラブハウスで食事できて、帰りにおみやげもらえたりといったサービスを展開。



-
-
-

マンチェスターユナイテッドの戦略

MUTVはショップチャンネルの役割も

MUTVをショップチャンネル的に使う。

試合の中継や情報だけでなく、たとえばファーガソン監督が出てきて「このアミノ酸はすごく効くぞ。選手にも飲ませている」とか言ったりする。ちなみにMUTVはフジテレビと2015年まで契約しているのでフジテレビOne, Two, Nextで観れる。

CRMを超えたリレーションシップ・マネジメント

CRM(カスタマーリレーションシップマネジメント)を超える、先端のことにも取り組んでいるマンU。いわゆるカスタマー以外にも対象を広げた取り組みを行なっているそう。具体的には、スタジアムやショップで働くアルバイトの人たち、または採用されなかったけどネットでアルバイト登録をした人たちなどをデータベース化し、リレーションシップ・マネジメントの対象に。そのデータベースを使って、様々なマーケティングを行なっている(マクドナルドの「マックdeバイト」がバイト登録すると採用・不採用に関わらずハンバーガー割引チケットがもらえたりするのと同じイメージ)。



-
-
-

マンチェスターユナイテッドの戦略

人件費割合はプレミア最低水準

ビッグクラブというと人件費ばかりかかっていそうなイメージがありますが、マンUの人件費割合(対売上比人件費率)はプレミアクラブのなかでも最低水準。10/11シーズンでは54%で下から3番目。ちなみにトップはマンCで人件費割合は114%。気になるアーセナルはマンU以下で49%。

上場で得た資金を選手獲得ではなく、ビジネス基盤づくりに投じる

1991年の上場で得た資金の多くをビジネスの基盤づくりに投じたというのもマンUの特徴。約375億円かけてオールド・トラフォードを改修したり、シーズンシートやVIPシートの増席やグッズ販売店の拡大などなど…。1990年に上場したニューカッスルが、その資金を選手獲得に費やし、一時期好成績を残すもののすぐに落ちぶれたのとは対照的。



-
-
-

イタリアのサッカー

セリエA(国内リーグ)

コパ・イタリア(国内カップ戦)

試合方式

20クラブによるホームアンドアウェー方式2回戦総当たりのリーグ戦形式。
従って1クラブあたりの1シーズンの試合数は38試合、計380試合が行われる。
勝利クラブに勝ち点3、引き分けの場合には両クラブに勝ち点1が与えられ、負けは0になる。

順位決定方式

順位は勝ち点の多い順に決められ勝ち点が最も多いクラブが優勝となる。
複数のクラブの勝ち点が同一の場合には得失点差などに関係なく同順位となる。
シーズン終了後に同順位の場合、そのチーム同士の対戦成績により決定する。



-
-
-

イタリアのサッカー

カップ出場権／残留／降格

カップ出場枠は毎シーズン、欧州サッカー連盟(UEFA)が定めるUEFAランキングで変動する。

セリエAは、UEFAチャンピオンズリーグ3枠、UEFAヨーロッパリーグ3枠を得る。

UEFAヨーロッパリーグの内1枠はコッパ・イタリアの優勝チームに与えられる。

コッパ・イタリアの優勝チームが順位で出場権を確保している場合は、準優勝チームに出場権が与えられる。

準優勝チームも順位で出場権を確保している場合は、順位による枠が1つ拡大される。また下位の3クラブがセリエBに自動的に降格する。



-
-
-

イタリアのサッカー

出場停止規定

警告処分は初め4回で1試合の出場停止処分となる。

その後3,2,1回と減り再び4回に戻る。

1試合に2回の警告処分及び退場処分を受けた場合は翌1試合の出場停止処分となる。

ただし1試合に2回の警告処分を受けても悪質とみなされなかった場合は出場停止処分を受けない場合がある。


外国人登録

EU内国籍およびEU加盟申請中の国の選手に関しては無制限に登録が可能。

EU外国籍選手に関しては、2002年7月18日以前に契約した選手には適用されず、毎年8月31日までに新たに契約してセリエAに参戦する選手は、各クラブに2人のみ追加で登録することが許される。



イタリア

クラブ	ホームタウン	スタジアム	収容人員
トリノFC		スタディオ・オリンピコ・ディ・トリノ	27,994
ジェノア サンブドリア	 ジェノヴァ	スタディオ・ルイジ・フェッラーリス	36,685
アタランタ	 ベルガモ	スタディオ・アトレティ・アズーリ ・ディターリア	24,642
インテル・ミラノ ACミラン	 ミラノ	スタディオ・ジュゼッペ・メアツツァ	60,074
キエーヴォ	 ヴェローナ	スタディオ・マルカントニオ ・ベンテゴディ	39,211
ウディネーゼ	ウーディネ	スタディオ・フリウーリ	41,652
ボローニャ	 ボローニャ	スタディオ・レナート・ダッラーラ	39,444
パルマ	 パルマ	スタディオ・エンニオ・タルディーニ	27,906
フィオレンティーナ	 フィレンツェ	スタディオ・アルテミオ・フランキ	47,282
シエナ	 シエーナ	スタディオ・アルテミオ・フランキ + モンテバスキ・アリーナ	15,373
ラツィオ ローマ	 ローマ	スタディオ・オリンピコ	72,698
ベスカーラ	 ベスカーラ	スタディオ・アドリアティコ	24,400
ナポリ	 ナポリ	スタディオ・サン・パオロ	60,240
カターニア	 カターニア	スタディオ・アンジェロ・マッシミーノ	23,420
パレルモ	 パレルモ	スタディオ・レンツォ・バルベラ	37,242
カリヤリ	 カリヤリ	スタディオ・サンテリヤ	23,486



-
-
-

スペインのサッカー

スペインにサッカーが伝わったのは19世紀の末頃。
イングランド人によってもたらされた。
場所はスペインの南西部、アンダルシア地方にある港町のウェルバ。

FCバルセローナは、1899年に、スイス人のジョアン・ガンペール氏が中心となって、バルセローナに住んでいたスイス人やイングランド人を集めて作られた。

レアル・マドリーは、1902年に、カタルーニャ人(バルセローナ周辺の地域)の学生によって作られた。

1928年「リーガ・エスパニョーラ (La Liga Española)」



スペインのサッカー

男子

プリメーラ・ディビシオン(1部)とセグンダ・ディビシオン(2部)はリーガ・デ・フトボル・プロフェシオナル(LFP)によって組織される全国リーグ。

セグンダ・ディビシオンB(3部相当)とテルセーラ・ディビシオン(4部相当)はスペインサッカー連盟(RFEF)によって組織される地域別リーグ。

5部以下のリーグは19地域のサッカー協会によって組織される地域別リーグ。

女子

レベル	リーグ
1部	<u>プリメーラ・ディビシオン</u> (16クラブ)
2部	<u>セグンダ・ディビシオン</u> (7グループ、各14クラブ)
3部相当	地域リーグ



スペインのサッカー(男子)

レベル	リーグ/ディビジョン
1部	<u>プリメーラ・ディビジョン</u> (リーガBBVA) (20)
2部	<u>セグンダ・ディビジョン</u> (リーガ・アデランテ) (22)
3部相当	<u>セグンダ・ディビジョンB</u> グループ1 (20) グループ2 (20) グループ3 (20) グループ4 (20)
4部相当	<u>テルセーラ・ディビジョン</u> グループ1 (19), グループ2 (20) グループ3 (20), グループ4 (20), グループ5 (20) グループ6 (20), グループ7 (20), グループ8 (20) グループ9 (20), グループ10 (20), グループ11 (20) グループ12 (21), グループ13 (20), グループ14 (20) グループ15 (20), グループ16 (20), グループ17 (20) グループ18 (20)
5部相当以下	<u>ディビシオネス・レヒオナレス</u> (地域リーグ)



スペインのサッカー(女子)

レベル	リーグ
1部	<u>プリメーラ・ディビシオン</u> (16クラブ)
2部	<u>セグンダ・ディビシオン</u> (7グループ、各14クラブ)
3部相当	地域リーグ



階級		チーム数	解説
1 部 (Primera División)		20	日本のマスコミで「リーガ・エスパニョーラ (Liga Española)」といわれるのはこの階級のこと。
2 部 (2 部 A) (Segunda División)		22	プロリーグ(LFP)という機関が統括し、全国規模で開催されるのはこのクラスまで。2 部 B 以下は、各地方で試合が行われる。
2 部 B (Segunda División B)	グループ 1	20	ガリシア、バスク地方中心
	グループ 2	20	アラゴン、カスティーリャ地方中心
	グループ 3	20	カタルーニャ、バレンシアなど地中海地方中心
	グループ 4	20	アンダルシア地方
3 部 (Tercera División)	グループ 1	20	ガリシア
	グループ 2	20	アストゥリアス
	グループ 3	20	カンタブリア
	グループ 4	20	バスク
	グループ 5	20	カタルーニャ
	グループ 6	20	バレンシア
	グループ 7	21	マドリー
	グループ 8	20	カスティーリャ・イ・レオン
	グループ 9	22	アンダルシア東部
	グループ 10	20	アンダルシア西部
	グループ 11	20	バレアレス諸島
	グループ 12	20	カナリア諸島
	グループ 13	20	ムルシア
	グループ 14	20	エストウレマドゥーラ
	グループ 15	20	ナバーラ & ラ・リオハ
	グループ 16	20	アラゴン
	グループ 17	20	カスティーリャ・イ・ラ・マンチャ



-
-
-

レアルマドリッドの戦略

2006年2月まで会長を務めていたフロレンティーノ・ペレス氏が就任した2000年から、今のようなスター軍団に変化してきた。

資金作りのために、クラブが所有していた練習場を600億円でマドリッド市に売却。それまでの負債を一掃し、スタジアムを改修。

そしてスター選手の獲得にも積極的に資金を投入していった。

2000年にフィーゴを移籍金67億円で獲得

2001年にはジダンを移籍金80億円で獲得

2002年にはロナウドを53億円で獲得

2003年にベッカムを47億円で獲得

2004年にオーウェンを16億円で獲得している。

映画業界まで進出

「リアル・ザ・ムービー」制作をクラブ自体が行ったドキュメンタリー映画。



-
-
-

レアルマドリッドの戦略

- ・プレシーズンのワールドツアーを実施
- ・グッズのオンラインショッピングサイトを整備
- ・ネックレス、ブレスレット、キーチェーン、財布、ドレッシングガウンなど新グッズを投入
- ・ホームスタジアムのエスタディオ・サンティアゴ・ベルナベウのスタジアムツアーを企画。2010/2011シーズンでは75万人以上が参加
- ・スタジアム内にレストランなど充実した施設・エンターテイメントを併設
- ・年間9,000万以上のビジットがあるオフィシャルウェブサイトRealmadrid.comをはじめ、TV、モバイル、ソーシャルネットワークなどを整備
- ・オンラインメンバーサービスオフィスなどコアファン(メンバー)用の窓口を設置
- ・マドリディスタのロイヤルティプログラムのベネフィットを拡充



- ・
- ・
- ・

ドイツのサッカー

ブンデスリーガ(国内リーグ)
ドイツカップ(国内カップ戦)

ブンデスリーガはドイツ全国リーグの1部リーグで18チーム構成。
ブンデスリーガ2(2部リーグ)との入替え方式は、ブンデスリーガ下位2チームとブンデスリーガ2の上位2チームが自動入替え、ブンデスリーガの16位とブンデスリーガ2の3位チームはプレーオフを行う。
広いドイツのリーグだけに試合のための移動距離は他の国のリーグより過酷である。
そのため極寒期のウインターブレイクも完全に1ヶ月を確保される。
リーグ開催日は、原則土曜日の15:30又は18:30だが毎節1試合が金曜日(20:30)に、数試合が日曜日(15:30か17:30)にスライドして開催される。
ただし、第33節と第34節(最後の2節)は土曜日の一斉開催となる。



ドイツのサッカー

ブンデスリーガ 18チーム

Borussia Dortmund	Bayer 04 Leverkusen	Bayern München
Hannover 96	1.FSV Mainz 05	1.FC Nürnberg
Eintracht Frankfurt	Hamburger SV	SC Freiburg
SpVgg Greuther Fürth	1899 Hoffenheim	VfB Stuttgart
Werder Bremen	FC Schalke 04	VfL Wolfsburg
Borussia M'Gladbach	Düsseldorfer Turn- und Sportverein Fortuna 1895 e.V	FC Augsburg



-
-
-

ドイツのサッカー

ブンデスリーガーの日程

<u>前半戦</u>	第1節(2013/08/10)～第17節(2013/12/21)
<u>後半戦</u>	第18節(2014/01/25)～第34節(2014/05/10)



アンゾフのマトリックス

		製 品	
		既存	新
市 場	既存	<p>市場浸透</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マーケットシェア拡大 ・製品使用度の増大 <ul style="list-style-type: none"> -使用頻度や量の増大 -新用途開発 	<p>新製品開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな属性の追加 ・製品ラインの拡張 ・新技術製品導入
	新	<p>新市場開拓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域的拡張 ・新ターゲット層へ拡張 	<p>(狭義の)多角化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな領域への参入 ・新規事業



-
-
-

アメリカのスポーツとヨーロッパのスポーツ

アメリカ: チーム数が決まっており、下位リーグへの降格がない。

ヨーロッパのサッカーなど: 下位リーグとの入れ替えが行われる。

(アメリカでは戦力均衡のシステムが必要。ドラフト制度やサラリーキャップ制度)

思想の違いは、公平(フェア)に対する考え方。

